

令和7年度 薬学教育協議会・分析化学系教科担当教員会議 議事録

- 日時: 令和8年3月29日(日)
12時00分～12時50分
- 場所: 日本薬学会第146年会(大阪)
第17会場(関西大学 第3学舎1号館2階 A201号室)
- 配布資料: 各種学会開催案内
- 参加者: 全国薬学部において分析化学教育に携わる教員82名

議題:

1 講演・話題提供

千葉大学の永澤明佳先生に、「死因究明を支える分析化学 -薬学的視点からのアプローチ-」と題し、まず、日本における死因究明の現状、特に異状死体の解剖率の低さ、法医解剖における薬毒物検査体制の脆弱性、薬毒物を用いた殺人事件の見逃し事例について、ご紹介頂いた。続いて、このような背景から制定された死因究明等基本法、および薬学教育モデル・コア・カリキュラムに盛り込まれた死因究明に関する内容を紹介頂き、死因究明、特に薬毒物分析に係る人材育成、研究体制整備が薬学部にも求められていることを説明頂いた。さらにご自身や千葉大学で推進されている死因究明に関する薬学的研究について紹介頂いた。講演後には、薬学部での異状死体の薬毒物分析実務を実施するために必要なことはなにか？薬学部で死因究明、薬毒物分析に関して具体的に何をどのように教育すべきなのか？など非常に多くの質問がなされ、永澤先生は千葉大学の事例も挙げながら、具体的に提示されるなど、非常に活発な質疑応答がなされた。

2 学会・シンポジウムの開催案内

- ・浜瀬健司先生(九州大学)からPBA2026について開催案内があった。
- ・古庄仰先生(静岡県立大学)から次世代を担う若手のためのフィジカルファーマフォーラムについて開催案内があった。
- ・宮本和英先生(山口東京理科大学)からバイオメディカル分析科学シンポジウムについて開催案内があった。

次回世話人は、東京薬科大学の柳田 顕郎 先生が担当する。

以上、議事の経過及び結果を明確にするため、本議事録を作成する。

令和 8 年 4 月 20 日
世話人 大阪大学 井上 豪